

# 怒涛のリーグ戦は3位で折り返し!

## 前期リーグ戦績

第1節 V S 平国大 2 0 0	第7節 V S 関学大 3 0 1
第2節 V S 亜大 2 Δ 2	第8節 V S 東海大 1 0 0
第3節 V S 桐蔭大 2 Δ 2	第9節 V S 法政大 3 0 0
第4節 V S 日大 2 0 1	第10節 V S 東洋大 2 ● 3
第5節 V S 拓大 1 ● 3	第11節 V S 青山大 3 Δ 3
第6節 V S 朝鮮大 4 0 0	6勝3分2敗 得失点差10 3位



## 4連勝果たすも最後に失速

まさかの2部という舞台で戦う事になった2012シーズン。開幕の平国大戦から第4節の日大戦まで勝点を拾ってはいたが、内容は決して褒められるものではなかった。すると、第5節の拓大戦では全く良いところ無く完敗。これを受けて、秋田浩一監督は練習で選手達にプレスを徹底させる。ここから内容はガラリと変わり、見事4連勝。しかし、総理大臣杯予選を1週間で5試合もこなしたことで選手達には疲労の色が。第10節の首位・東洋大との直接対決に敗れると、続く青学戦も引き分け止まり。最後の最後に首位の背中が遠のいてしまった。また、上位2チームとの対戦成績は1分1敗。1回も勝つ事は出来なかった。とはいえ、リーグ戦は後11試合ある。首位との勝ち点差『7』はまだまだ射程圏内だ。(紙面編集:猪熊脩登)

## 順位表<前期リーグ全日程終了時>

チーム名	勝点	勝数	分数	負数
1. 東洋大	28	9	1	1
2. 桐蔭大	22	7	1	3
3. 駒澤大	21	6	3	2
4. 法政大	18	5	3	3
5. 関学大	15	4	3	4
6. 青山大	14	4	2	5
7. 東海大	13	4	1	6
8. 朝鮮大	13	4	1	6
9. 平国大	13	4	1	6
10. 亜大	11	2	5	4
11. 拓殖大	10	2	4	5
12. 日本大	7	2	1	8



## 課題は明確。プレスの再構築を

直近の2試合での失点の数は『6』。堅守をベースとして戦う駒大にとってこの数字は異常事態と言える。連戦の影響もあるが、原因は前線のプレッシングにある。ここ2試合、プレスに行ったは良いが、コースを限定することが出来ずに簡単に前にボールを運ばれるシーンが目立った。これにより、ディフェンスラインは下がらざるを得なくなり、何度も中央突破を許してしまった。だが、青学戦後に「前からプレスに行けなかった。駒大のサッカーが徹底できていなかった」と、プレスの鍵を握る山本が話したように、選手達は課題をしっかりと認識している。まだまだ試行錯誤の段階だが、これを乗り越えた先に駒大スタイルの完成形が見えてくる。